

文章構成や整合性を意識して他者に伝わる文章を目指す子どもの育成

～小5「反対の立場をを考えて意見文を書こう」の実践を通して～

知立市立猿渡小学校 小笠原 梨香

1 主題設定の理由

本学級の児童は、「環境問題について調べたことを発表しよう。」の学習で、タブレットを使用し、各自の興味がある環境問題について調べ、分かった事実やそれに対する自分の考えを相手に分かりやすく伝えることに取り組んだ。授業支援アプリ(ロイロノート)を使用し、調べた事実を分かりやすく伝えるための写真や資料の作成に積極的に取り組む姿が見られた。しかし、発表原稿の作成では、「何から書けばいいのかわからない」と手が止まってしまう姿が見られた。また、できあがった原稿を見ると、調べた事実とそれに対する自分の考えやその根拠などを順序だてて書くことができていない児童が多くいた。また、伝えたいことの根拠や考えが明確に示されておらず、説得力がある文章であるとはいえなかった。ふりかえりでも、自分が伝えたいことが相手に上手く伝えられたという実感をもてた児童はごくわずかだった。日常生活ではSNSの発達で、文字を使用してのコミュニケーションでも、ごく短い話し言葉でのやりとりが主流となっている影響もあり、文章を書くこと自体に抵抗のある児童が多い。学習指導要領の高学年の目標にもある「目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章に書く」力は、児童が社会に出た際に必要な力である。このような実態から、子どもたちには説得力のある文章の書き方を学ぶことで、少しでも書くことに興味をもち、自信をもって取り組めるようになってほしいと考えた。5年生の「反対の立場をを考えて意見文を書こう」では、自分の主張をより説得力のあるものにするために「反対意見を考えて書く」ことが設定されている。教科書の例文は児童にとって身近なテーマを取り上げており、内容も捉えやすい。説得力のある文章を書くための具体的な方法を学ぶのに適した実践ができると考えた。

2 目指す児童の姿

児童の実態をふまえて以下のような児童を目指そうと考えた。

文章構成と整合性を意識し、伝えようとする児童

他者の視点を意識して説得力のある文章を書くことを目指す児童

3 研究の仮説と手立て

仮説1 文の書き方の型や構成に必要な語彙を習得すれば、文章構成と整合性を意識し、伝えようとするができるだろう。

＜仮説1に対する手立て①＞…意見文の型や構成に必要な語彙を学ぶトレーニング

朝の帯学習(チャレンジタイム)の時間を使って、立場の異なる意見交流をしたり、分かりやすく伝えるための語彙力トレーニングをしたりする。

＜仮説1に対する手立て②＞…構成と整合性を学ぶ、二種類のエラーモデル文の提示

構成を学ぶためのエラーモデル文(反対の立場の意見と、その意見についての対応がない)と、教材文(反対の立場の意見とその意見についての対応がある)を提示し、比較することで説得力のある文章の工夫を見つけやすくする。エラーモデル文は、児童がこれまでの学びも含めて、説得力がある意見文を書くための工夫に気づけるように意図的に作成する。

次に整合性を学ぶためのエラーモデル文②(整合性がとれていない)を提示する。教材文(整合性がとれている文)と比較することで、説得力のある意見文を書くために、整合性を意識する必要を実感し、構成メモやそれを文章化するための推敲に活かせるようにする。

仮説2 自分の意見を客観的にとらえる機会を設ければ、他者の視点を意識して説得力のある文章を書くことを目指せるだろう。

＜仮説2に対する手立て①＞…自分ごとと捉え、書く必要性を感じるテーマの設定

今回の実践にあたり、まず児童が「書きたい」と感じる魅力的な意見文のテーマの設定が重要だと考え、学校の行事に沿ったテーマを設定した。

＜仮説2に対する手立て②＞…意見交流により他者の視点を意見文に取り入れる。

意見文を書く前の構成メモを作成する段階で、まずそれぞれの意見について少人数グループで反対の意見やその意見への対応について意見交流する場を設定する。

意見交流は、反対の立場の意見とその対応についてと、内容について整合性がとれているかについて段階を分けて行う。

＜仮説2に対する手立て③＞…タブレットによる「書く」活動の効率化と抵抗の軽減と学びの共有

今回の実践では、構成メモの作成から意見文を書き上げるまで、全てタブレットを使用する。手書きでは書くことに抵抗を感じている生徒も、既習漢字を正しく用いて書くことや、文章の構成や内容の推敲の抵抗感を軽減し、お互いの考えや意見など、授業支援アプリ(ロイロノート)を使用することで、学びの共有もしやすくなる。

4 単元構想

以下のような単元構想で実践を進めた。

第1時	校長先生からのミッション！1年生を楽しませる活動を考えて報告しよう。 ・校長先生からのビデオメッセージを見て、1年生を楽しませる活動について、自分の意見やその理由を考える。
第2時	校長先生を説得できる意見文の書き方を知ろう。 ・教科書のモデル文と、教師が用意したエラーモデル文の2つの意見文を比較し、説得力のある文章の書き方を学ぶ。
第3時	自分の意見とその理由、反対の意見とその意見への対応を考えて、構成メモを作ろう。 ・第2時で学んだことを生かし、タブレットの構成メモに自分の意見を書いていく。
第4時	それぞれの提案の反対の立場の意見と対応についての構成メモについて、仲間とお互いの考えを伝え合おう。

第5時	自分が考えた構成メモの内容が、本当に説得力がある意見文を書けるようになっていくか確かめよう。 ・教科書のモデル文と教師が用意した整合性が取れていないエラーモデル文の2つを比較し整合性について学ぶ。
第6時	つながりを意識して、自分の構成メモが、整合性がとれた意見文を書ける内容になっているのか、もう一度、仲間とお互いに確かめよう。
第7時	前時までに作成した構成メモの内容をつなぐ言葉を適切に使い、文章を整えよう。
第8時	互いの意見文を読み合い、校長先生に提出する意見文を3つ選ぼう。 ・評価基準をもとに相互評価をし、クラスの意見書としてよりふさわしいものを話し合っ
第9時	校長先生に意見文の高評をしてもらおう。 ・大画面に意見文をうつしながら校長先生に伝え、説得力のある意見文であったか評価してもら

5 研究実践

ア 仮説①の実践

(1) 意見文の型や構成に必要な語彙を学ぶトレーニング …手立て①

児童が自分の考えをもちやすいテーマで、本学級は「話す・聞く」ことの活動に積極的な児童が多いこともあり、資料1-①のように、自分の考えや理由について相手に伝えることはできていた。しかし、傍線部㉞のAが食べきれないことによる食品ロスについて述べたことに対して、食べ残してしまうことで、結局栄養バランスが偏る可能性があるのにも関わらず、Bが傍線部㉟のように述べるなど会話の整合性を意識しているやりとりにはなっていなかった。しかし、トレーニングを重ねた後は資料1-②のように、つなぎことば（資料1-②の四角の枠内）を適切に使用し、構成や整合性を意識した会話ができるようになった児童が多かった。

<p>テーマ 『給食とお弁当、どちらがよいか』</p> <p>A ぼくは、好きなものだけ入れてくれるし、全部おいしく食べれるし、お弁当がいいな。</p> <p>B 私は給食がいいと思う。おいしいし、お母さんが毎日お弁当を作らなくていいと、楽だから。</p> <p>A ㉞給食だと、量が多くて食べきれないから…。残したらもったいないよ。</p> <p>B でも、㉟給食は栄養があるから、やっぱりお弁当よりいいよ。</p>
【資料1-① 訓練をはじめた前半の会話】



<p>テーマ 『給食とお弁当、どちらがよいか』</p> <p>A ぼくは、お弁当がいいと思います。なぜなら、好きなものだけ入っているのだから、全部残さずおいしく食べられるからです。</p> <p>B 私は給食がいいと思います。理由は二つあります。一つ目は、お母さんがお弁当をつくる手間がかからないからです。二つ目は、給食は栄養のバランスを考えて、献立を考えているので体にいいからです。</p> <p>A 確かに給食の方が栄養のバランスはいいけれど、好き嫌いがあったり、食べきれず残してしまったりすると結局、栄養バランスのいい食事がとれないと思います。</p>
【資料1-② トレーニング後の後半の会話】

また、構成メモができた後、自分が考えた構成メモの内容が、本当に説得力がある意見文を書けるように作れたか確かめる活動を行った。整合性がとれているかを理解してから意見交流に臨めるように、初めに教師が用意した整合性がとれていないエラーモデル文Ⅱ(資料4)を提示した。

<p>△整合性がとれていない部分のみ抜粋▽</p> <p>●ドッジボールの提案の根拠</p> <p>①全員が参加できて楽しめる活動をすれば、みんながもつと仲良くなれる</p> <p>①に対するエラーモデル</p> <p>全員が決められたルールをきちんとしてやればドッジボールはクラスをよりよくしていくのにふさわしい</p> <p>●反対の立場の意見とその対応</p> <p>②、得意な人ばかりがボールをとることで、なり、ボールにさわれない人は楽しめないという心配があるかもしれません。ボールに当たるといたいし、速くて強いボールはこわいという人もいる</p> <p>②に対するエラーモデル</p> <p>ボールの数をたくさん増やして、ボールにさわれる人が増えるようにすればいい</p> <p>ボールに当たるのがこわい人は、外野にいくか、内野で逃げることを楽しめばいい。</p>

【資料4】整合性がとれていないエラーモデル文Ⅱ(全文は当日配付資料に掲載)

その後のグループでの交流では、整合性がとれているかの判断が難しいと多くの児童が感じていた。そこで、反対意見とその対応について焦点を絞り、整合性がとれている、またはとれていないと考えた理由について意見交流(資料5)を行うよう指導した。意見交流をすることで、それまで整合性がとれていなかった内容についても、資料5の波線部のように整合性を意識して内容を推敲できた児童の姿を見ることができた。

※「暑いから熱中症になる危険がある」という反対の立場の意見への対応に整合性があるかを考える場面にて…

S1 「体育館を使えばよい」だと、今は体育館も外と変わらないぐらい暑いから、ちゃんとした対応になっていない気がする。

S2 ほんとだ。じゃあもう一つ書いてある「熱中症にならないようにする」はいいの。

S3 ん…熱中症になる危険があるから、熱中症にならないようにする…なんかおかしい。結局どうすればいいのかわからんよね。

S2 夏の暑いときは、外に出るときはぼうしをかぶる、って学校でも放課のときに、毎日言われてるよね。

S3 うん。小まめに水を飲むのも、熱中症予防になるよ、って先生とか言うね。

S1 だったら、帽子をかぶり、こまめに水分補給をして熱中症にならないようにする、ってしたらいいんじゃない。これならわかるよね。

【資料5 整合性がとれているかについての意見交流の会話記録】

イ 仮説2の実践について

(1) 自分ごとと捉え、書く必要性を感じるテーマの設定…手立て①

毎年6年生が主体となって行っている「猿渡っ子交流会」を見据えて、1年生を楽しませる計画を考え、意見文にまとめるというミッションを校長先生から出してもらった。その動画を食い入るように見た児童たちは、資料6から分かるように、多くの子が意見文を書くことに意欲を高めている様子が見えられた。

- T 校長先生からの特別ミッション、何と書いていましたか。
- S 1 1年生が楽しませる計画を考えて、意見文を書いてほしい、って書いてました。
- T みんな、それを聞いてどう思った。計画を考えて、それを意見文に書くの、がんばれそうですか。
- S 2 ぜったい楽しいよね、計画考えるの。早くやりたい…。
- <他の児童も、頷き、口々に「おもしろそう」等の発言をしている。>
- S 3 1年生、何したら嬉しいかなあ。やっぱり鬼ごっことか…動くのがいいかも。
- S 4 計画できたら、意見文を書くんだよね。校長先生に出すんだから、ちゃんと書かないと。
- S 5 うん。漢字を正しく使って…それと、きちんとした言葉で書いて…。
- S 6 それは、タブレットとかで調べればいいでしょ。先生、意見文、もう今からやればいい？

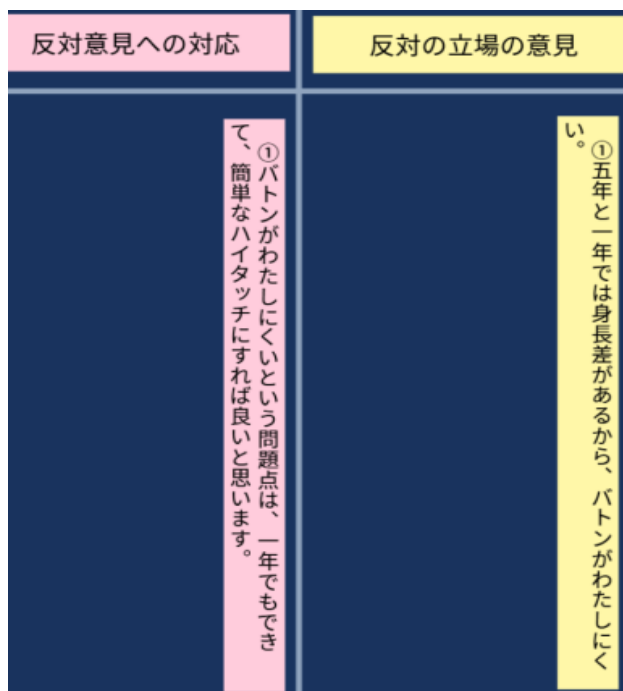
【資料6 動画を見た後の児童たちの会話の記録】

(2) 意見交流により他者の視点を意見文に取り入れる…手立て②

児童は各自で作成した構成メモをもとに、反対の立場の意見とその意見への対応について考えを広げられるように、少人数のグループで意見の交流を行った。そこでの意見を参考に、反対の立場の意見とその対応を取り入れた構成メモを作成していった。児童S1は、仲間の発言(資料7のS2とS3の傍線部㉗～㉙)で、自分では気づくことができなかった反対の立場の意見とその対応(資料8-②、㉗と㉙、㉘と㉚)を構成メモに取り入れたことが、児童S1の意見交流前の構成メモと交流後の構成メモ(資料8-①交流前の構成メモ、資料8-②交流後のメモ)から見てとれた。また、資料7の児童S1の波線部の発言から、仲間との意見交流によって、他者の視点を意識して、意見を付け加えることができたことがわかった。

- ※S1の児童は 「1年生を楽しませる計画として、リレーを行うのがいい。」と提案している。
- S 2 リレーか…。㉗5年生と1年生だと足の速さが全然違うから、いっしょに走るのは大変じゃない。
- S 1 そっかあ。5年生と1年生と同じ人数になるように調整して、同じ学年同士で走ればいいかな。
- S 3 それだと、人数を合わせるのも大変だし、結局学年ばらばらで走るから、あまり1年生と交流できないよね。
- S 2 じゃあ、㉘5年生と1年生で手をつないでペアで走ることにするのはどう？
- S 1 いいかも。手をつなぐから、5年生が1年生のスピードに合わせて走ってあげればいいもんね。
- S 3 ㉙外は暑いし、日差しも強いと、1年生は疲れちゃって、つらいよね。あと、もし、雨が降ったらできないよね。
- S 2 リレーなら、㉚体育館でもできるよね。雨が降っても関係ないし、中だから直射日光も当たらないからいいんじゃない。
- S 1 体育館でできる、って入れると天気に関係なく、同じようにできるから、リレーはいいかも、って思ってくれるよね。

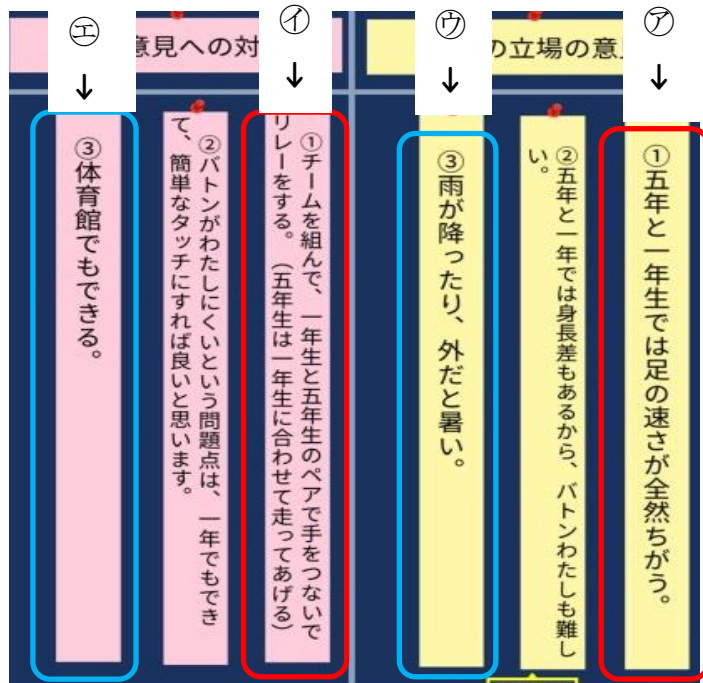
【資料7 少人数グループでの意見交流の記録】



【資料8-②児童SIの交流後の構成メモ】



授業支援アプリ「ロイロノート」の画面。児童が考えをまとめた「カード」を作成し、簡単に発表できる特徴があるアプリ。また、シンキングツールを使って思考力を養うこともできる。



【資料8-②児童SIの交流後の構成メモ】

(3) タブレットによる「書く」活動の効率化と抵抗の軽減…手立て③

児童は仮説2-(2)で述べた意見交流の際に、授業支援アプリ(ロイロノート)を使用し、助言をカードに書いて児童がお互いに送り合った。資料8-②の構成メモ内の⑦と⑧は送られたカードを自分の構成メモに取り入れたものである。このように交流して得た意見を、自分の意見文を取り入れることがより容易に行えた。



【写真①児童がカードを送り合う様子】

6 研究の成果と課題

本実践を行った後に児童S1が書き上げた意見文である（資料9）。

<p>右の意見文の構成</p> <p>① 自分の意見</p> <p>② ①の理由</p> <p>③ 反対の立場 の意見①と その対応</p> <p>④ 反対の立場 の意見②と その対応</p> <p>⑤ 自分の主張 ※①の意見を再 度まとめて主張</p>	<p>① 一年生を楽しませるにはどうすればよいと思いますか。私はリレーをやるのがいいと思います。</p> <p>② 理由は二つあります。一つ目は、一年生と五年生を平等に分ければ、体力差を気にせず楽しく遊べると思ったからです。二つ目は、リレーは仲間との協力が必要になるチーム戦なので、一年生ともっと仲良くなれると思ったからです。</p> <p>③ もっとも、リレーでは、五年生と一年生で走る速さがちがうので楽しめないと思う人もいるかもしれません。それならば、五年生と一年生で手をつなぎ、ペアでリレーを行えばいいと思います。</p> <p>④ また身長差があるのでバトンが渡しにくいと思うかもしれませんが、バトンの代わりに一年生でも簡単にできるハイタッチにすればいいと思います。</p> <p>⑤ チームのみんなで作戦やペアを考えて協力したり、体格の差を気にせずできるようなルールを考えたりすれば、一年生を楽しませてあげられて、仲良くなれるのではと思ったので、私はリレーをやるのがいいと思います。</p>
--	--

【資料9 完成した児童S1の意見文】

①から⑤は、仮説1で学んだ教科書のモデル文と同じ構成となっている。児童の中には、「意見文をどのように書き始めたらよいかかわからない」という思いをもっている者が多くいた。しかし、朝の語彙トレーニング（仮説1一手立て①）を行ったことで、どの児童も基本の型がある程度理解でき、32名全員が意見文を書き上げることができた。児童S1も、自分の意見として初めに述べたこと（資料9の①と②点線部）が、最後にもう一度主張としてつながるよう、文章全体の整合性を意識して書き上げられた（資料9の⑤点線部）。

また少人数グループでの意見交流（仮説2一手立て②）を行ったことで、児童S1は、自分の意見文の構成内容について、客観的に検討することができた。資料7と資料8からもわかるように、仲間の意見を自分の構成メモの作成に活かしたり、特に反対の立場の意見について、新たな視点に気づき、構成メモの作成に活かしたり、推敲したりする児童が多く見られた。ただし、グループによっては意見に偏りがあり、視点を広げることが難しい場面もあった。よりよい意見交流のためには、交流前に児童の構成メモの内容や課題について把握し、グループ編成に配慮する必要があると考える。

今回の実践では、「説得力がある」ことは、「他者に分かりやすく伝わる」ことだと捉え、意見文を書くための整合性や文章の構成に着目して説得力のある文章を書く力を育む方法を研究した。書く目的によって構成は様々である。そして、整合性や文章の構成以外にも、わかりやすい文章を書くための要素が他にも多くあると考える。児童が日々の生活の中で目的に応じて自分の考えを相手に分かりやすく伝える力をつけられるように、これからもさまざまな実践を行っていききたい。